

新しい時代のノーマルを求めて —男女が共にパンデミック後 の新たな世界を築く

COVID-19 パンデミックが女性に及ぼした影響は何だったのか？このパンデミックは我々の社会、政治、仕事、そして生活の何を明らかにしたのか？米国や日本、そして世界の女性にとって“次の(新たな)ノーマル”とは、一体どのようなものなのか。この問いかけは、日本国際交流センターが2021年3月から4月にかけて3回シリーズで開催した11名の連邦および国会議員を含む、政府、経済、メディア、財団、学界、そしてシンクタンクのリーダー等、40名以上に及ぶ日米の女性指導者が一堂に会するオンライン・ダイアログにおいて発されたものである。

ダイアナ・デゲット民主党下院議員と野田聖子自由民主党衆議院議員の共同議長により実施した2021年日米女性リーダーズ・ダイアログにおいて、世界的パンデミック下における参加者の経験と懸念がいかに大きなものであったか、想定以上の意見の一致があったことが明らかになった。

日米両国において、女性が従事することの多い職業、とりわけ日本に多い、契約あるいはパートタイム社員という職業傾向の結果、女性は実質的により大きな経済的不利益を受けてきた。両国では、パンデミックが女性や子どもたちのメンタルヘルスに特に重圧をかけていることがわかってきた。またパンデミックは、テクノロジーやブロードバンドへのアクセス、介護サポートへのアクセスの不公平が、その底辺にあることも明らかにした。

日米の参加者は、女性が職業を持ち続けるうえで必須となる育児や高齢者介護、障害を持つ家族のケア・サポートへの容易なアクセスの改善を訴えた。伝統的な男性の役割並びに、両国に根強く残っている家族の介護や家事の不公平な分担を女性の役割と決める男性の優位性を再考する必要があるということに意見の一致をみた。

パンデミックのインパクトの他に一致を見た見解は、日米両国の議会におけるジェンダー平等が欠けているということである。政府のすべてのレベルにおける決定権のある職階に、男性は女性より圧倒的に多く就任している。その理由として、育児や家事における伝統的偏り、心理的・規範的要因を含む多くの理由を特定したが、さらに、女性にとって政治がそのキャリアの一つの選択肢とみることが少ないこと、特に日本においては、過去に顕著なモデルとなる女性がいなかったことが原因であるとした。女性は他者から勧められたり、リクルートされた場合、また、彼らに関心を持っている事項を変えることができるのは政治であると考え、立候補を考えるようである。

密室でのやりとり、世論へのおもねり、まったく行動をとらないことなどの国政に対する現在のイメージは、多くの女性にとって魅力のないものであり、こうした政治の在り方を考え直すべきとの呼びかけがあった。さらに、このダイアログは菅首相とバイデン大統領の首脳会談の時期に実施されたが、会談の議題において女性の課題にまったく触れられなかったことに失望の念が表明され、こうした対話において女性をもっと関与させるべきこと、国際安全保障におけるイニシアティブの発揮や女性の科学・技術・工学・数学（STEM）やフェムテック（女性特有の生きづらさをテクノロジーで改善）分野で女性の参加促進するための協力を求めた。

以下の提言は、3回のダイアログにおいて議論され、まとめられた考えを要約するもので、JCIEの責任においてまとめたものである。

2021年日米女性リーダーズ・ダイアログによる提言

1. 「ネクスト・ノーマル」の創出

- パンデミックにおけるベスト・プラクティスを評価・採用するーテレワーク、遠隔医療、ブロードバンドやテクノロジーへのアクセスの改善
- すべての人により質の高い育児・高齢者ケアを提供するとともに、ケアワーカーの貴重な働きに見合う賃金を確保する
- すべての男性と女性に対し有給の家族介護休暇を可能にし、さらに男性の育児休暇取得を推進する
- 女性の経済的安定を阻む非正規・契約社員頼りの雇用慣行から脱却する
- 収入や雇用安定性が高い、IT その他の分野における女性の再教育を実施する
- 日本における、より柔軟で転職可能な環境を促進する
- すべての人のワーク・ライフ・バランスの働き方改革の議論に男性を参加させる

2. 女性の政治参加と政策への影響力強化

- 若い女性が政治について学び、参加する契機となるような取り組みを推進・拡大する
- 政治家をめざす女性立候補者を支援・リクルートするプログラムを拡充する
- より多様かつ有能な人材を惹きつけるため、政治の在り方について再評価する
- 日本においては、より多くの閣僚ポストを国会外からリクルートする

3. パンデミック後の世界に向けた日米協力

- ルールに基づく国際秩序を強化するための日米協力を支援
- ソフトパワー対話だけでなく、国内及び国際的な安全保障問題に関する二国間議論にも女性を参加させる
- 次の日米首脳会談のアジェンダに女性問題を盛り込む
- STEM（科学・技術・工学・数学）分野で活躍する女性推進およびフェムテック（女性特有の生きづらさをテクノロジーで改善）の促進と投資に向けた日米協力を推進する
- 女性リーダーズ同士の継続的な対話機会を提供する

本プロジェクトは、米国のヘンリー・ルース財団および日本のMRA財団の寛大な支援により実施した。本報告においてまとめられた結論と提言は、対話と議論から生まれた考え、テーマ、趣旨を反映させたものである。それらはあくまでJCIEの責任においてまとめたものであり、参加者個人や資金提供者の考えを反映するものではない。本プロジェクトおよび報告書全文は、以下のウェブサイト参照のこと。<http://www.jcie.or.jp/japan/report/activity-report-13854/>